

第9回群馬県新型コロナウイルス感染症対策協議会（議事概要）

概 要

- 1 日 時：令和2年10月28日（水） 18:30 ～ 19:30
- 2 場 所：県庁7階 審議会室
- 3 出席者：群馬県新型コロナウイルス感染症対策協議会委員 17名、事務局 5名
- 4 要 旨：今後のインフルエンザ流行に備えた相談・検査体制の整備等について協議を行った。

議 事

1 開 会

2 須藤座長あいさつ（要旨）

県内の感染状況を見ると、今、外国籍の方が多いようだ。昨日カンボジアからの交換留学生と話す機会があり、東南アジア圏であれば、国や言語が違っても、大体の意味は通じるのかと尋ねたところ、なかなかそうはいかないとのことだった。

今、東南アジア圏の方々のクラスターが多い状況だが、その国ごとの言語でないと情報が伝わらないという印象を受けた。ブラジルなど南米関係の方については通訳が入り上手く行き始めたが、やはり言語の問題は、今後も重要な部分になると感じた。

本日は、前回に続きインフルエンザとの同時流行に備えた体制整備ということだが、今回65歳以上の方のインフルエンザワクチンを無料化したのが、効果が相当出ている。ワクチン接種の件数が伸びており、今後はインフルエンザワクチンの供給面での問題も出てくるかもしれないので、注視が必要と思う。

明るい話題としては、来年度の臨床研修医マッチングの結果が、過去最多になった。本県は全国で2番目の増加率ということである。コロナ禍にあつての明るいニュース。これを力に、官民一体となってコロナ対策をしっかりとやっていければと思う。

医療・行政にとって、本当に大きな課題への対応となるが、本日お集まりの委員の皆様方には引き続き連携・協力を、ぜひよろしく願いするとともに、本日も忌憚のないご意見、ご提案をいただければと思います。

3 議 事

（1）新型コロナウイルス感染症の発生状況について

事務局 | (資料により説明)

委 員 | (委員配付資料により説明)

座 長 | 県内の発生状況が年齢構成別で示されていて、感染の波の特徴がよ

く分かる。最近では若者の感染事例が多いが、高齢者も少し増えており、重症化するケースが増えているようだ。ECMOは5台稼働している。群大病院の状況はどうか。

委員

群大病院でも、一時期より重症者が増えている印象。患者の推移を注視していきたい。

当院で行っていたICUの工事が10月で終了した。ICUの病室が使えるようになったので、以前よりは対応しやすくなった。

(2) 次のインフルエンザ流行に備えた体制整備について

事務局

(資料により説明)

委員

県で具体的に取組を進めてくれたが、各地域で状況が異なる部分があると思う。特に相談体制は、市町村で行う電話相談もあると思うので、それぞれの地域で連携し、よりよい取組にしていけるとよい。

座長

郡市医師会ごとに、相談体制はできたということでしょうか。

事務局

相談体制については各郡市医師会を中心に検討を進め、同時流行に備えた新しい体制への移行準備ができたと認識している。

座長

診療・検査体制についてはどうか。

委員

かかりつけ医がない患者に対し、コールセンターが診療・検査外来を紹介することになるが、対象となるのは、資料中の「指定に関する意向調査」において「紹介可」としている医療機関という理解でよいのか。

富岡地域は、紹介可の診療・検査外来がゼロだが、大丈夫か。

事務局

前段のご質問は、お見込みのとおり。

後段のご質問だが、富岡地域独自の形となるが、患者の身近な医療機関から富岡地域で設立しているPCR検査センターにつなぐ対応をとっており、必要な方は確実に検査につなげるようになっている。

委員

医療圏をまたぐ紹介はどうか。

事務局

基本的には同一医療圏内での紹介を想定している。

座長

太田地域、館林地域は、やや診療・検査外来が少ないように感じるが、どうか。

委 員	地域医師会と引き続き意見交換を行っていききたい。
事務局	太田・館林地域では、準帰国者・接触者外来の集合契約を結んでいない医療機関や、地域医師会員以外の医療機関への案内なども行うと聞いており、診療・検査外来の指定件数を増やしていきたいと考えている。
委 員	開業医では対応が難しい発熱患者を受け入れてくれる病院も必要になってくると思う。
事務局	新型コロナウイルス感染症の疑い患者を受け入れる、協力医療機関という制度も設けており、現在、27か所の病院を指定している。 診療所等で診察して検査が必要だが、結果が出るまで入院治療が必要で自宅には帰せないという場合には、協力医療機関との連携も検討いただければと思う。
座 長	協力医療機関27か所は公表されているか。
事務局	広く公表は行っていないが、関係者間で情報共有している。
委 員	当地域でも協力医療機関が1か所あるので、該当事例があれば、お願いしたいと思っている。
委 員	地域に一つも無いと厳しい。
委 員	当地域では、昨日、疑い事例があり、協力医療機関に紹介できるようにした。
座 長	診療・検査外来の情報公開については、どうか。
事務局	診療・検査外来の情報公開に関しては各都道府県で取り扱いが異なるが、本県としては広く公表するのではなく、関係者間での情報共有を行い、コールセンターや診療所などから患者を案内・紹介する形にしたいと思っている。
委 員	12月からwebシステムで情報共有できるが、それまでの間は、医師会経由での情報共有となるので、ご協力お願いしたい。
委 員	医師会に情報を頂ければ、速やかに診療所へ情報伝達できる。また、診療・検査外来は11月以降も徐々に増えていくと思われる。
座 長	指定状況の更新と、その情報共有が重要になる。

事務局 | 診療・検査外来の指定状況や感染者の発生、濃厚接触者の状況など、今後も医師会と緊密に情報共有を図っていきたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る政令改正等の概要について

事務局 | (資料により説明)

座長 | 宿泊療養施設の入居者が相当増えたが、状況はどうか。

委員 | 外国籍の方が多く、聞き取りなどの面で、言葉の問題による難しさもあるが、症状がない方が多く看護師2名体制にもなったので、対応できている。

委員 | 現在、宿泊療養施設は1か所だが、更に追加で開設するとなると、人員の確保など様々な対応が必要になる。そのような際には関係各位にご相談させていただきたい。

委員 | 宿泊療養施設のおかげで、医療機関側の疲弊が防げており、感謝している。

今後の先々を見据えた問題提起を1つ。

宿泊療養施設が前橋市内にあるため、施設利用者が体調不良となった場合には、現状、群大病院と前橋赤十字病院で対応している。

重症の患者数が現状程度であれば、今の対応で特に支障はないが、今後、重症患者が増えると、宿泊療養施設からの患者対応が困難になる可能性も考えられる。

もちろん、県全体のことを考えると、宿泊療養施設をもう1か所開設するのは非効率なので、できる限り現在の施設で受け入れる方がよいと思うが、場合により、宿泊療養施設で体調を崩した方に関し、例えば、往診とか、他の病院にお願いするといった対応が必要になるかもしれない。そうした必要性が生じたら、この協議会で検討をお願いしたい。

委員 | 補足だが、最近、発疹などで群大病院を紹介されたケースもあるが、やはり今後重症患者が増えると、対応が負担になることが懸念される。

委員 | 外来で診てもらうことで済む方もいるので、他の病院で受けていただけるとありがたい。

座長 | 前橋市内の他の病院で診てもらうことも可能だろうか。

- 委員 コロナ患者を診るというのは負担でもあり、できる限り群大病院と前橋赤十字病院で対応するのが、前橋市や県全体のことを考え効率がよいと思う。
今の状態が続けば大丈夫だが、もし今後、感染拡大により重症患者が増えると、なかなか今の形だと立ち行かなくなる。その際は検討が必要になると思う。
- 委員 宿泊療養施設に入る方が熱があるときは、薬を持って行くよう指導しているが、宿泊療養施設で解熱剤などを出すことはできないか。
- 委員 対面で診療するスペースがなく、患者から電話で話を聞くだけなので、なかなか難しい。
- 座長 往診に行ったという形にはできないだろうか。
- 委員 かなり悩ましい課題ではあるが、検討してみたい。
- 座長 今後の課題として、検討しておいた方がよいかもしれない。

(4) その他

- 委員 少し気が早いですが、年末年始の体制について検査ができるかどうか。民間の検査機関に検体を出せないときに、県衛生環境研究所やPCRの検査機器を持つ病院で対応いただくとか、今のうちから、検討をお願いしたい。
- 委員 年末年始の対応については保健予防課とも相談しながら対応できるよう検討したい。
- 座長 事務局とも、よく相談し、ぜひ、よろしくをお願いしたい。

5 閉会

以上